平成 29 年 12 月 24 日発行

大町山岳博物館友の会　第　173　号

ゆきつばき通信

山博友の会 40 周年に向けて

大町山岳博物館友の会会長　宮澤洋介

友の会会員の皆さま、日頃より友の会活動にご協力頂き、誠にありがとうございます。

昭和 53 年に新生「山博友の会」が出発し、平成 30 年で満 40 年の節目になります。その間、山博でも今の建物の建設をはじめ、様々な出来事がありました。

友の会は、山博が大好きで、山博を心の拠り所にしたい人たちの集まりです。山の自然と文化に直接触れ、身近にすることで、癒しの場となることを願っています。山博創設時の精神でもある、会員が計画し、運営する行事も今後も続けていく予定です。

このたび、40 周年にあたり、記念の事業を行いたく、会員の皆さまからのアンケートと、合わせて友の会への要望もたくさん頂きました。誠にありがとうございます。アンケートの結果と皆様のご意見を考慮して 40 周年の記念となる行事を行いたいと思います。

今までの友の会記念事業としては、例えば「チョモランマベースキャンプトレッキング」などいくつかありましたが、今回は大勢の方々が参加できるものにしたいと思います。計画時から多くの会員の参加を望みます。どうか期待していて下さい。

【共催事業　担当役員報告】

鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓（氷河）調査団員は語る　「秘境　カクネ里とは」講演・エクスカーション

《期　日》　講演　9 月 23 日（土）　午後 7 時～8 時 30 分
　　エクスカーション　9 月 24 日（日）　午前 8 時～午後 4 時
《場　所》　山岳博物館　講堂　/　五竜遠見スキー場～小遠見
《講　師》　講演　福井幸太郎さん（富山県立山カルデラ砂防博物館）
　　エクスカーション　今滝郁夫さん　傘木靖さん（山岳総合センター）
《参加者》　講演　39 名　エクスカーション　18 名

今回の企画は、大町市「山岳文化都市」宣言 15 周年記念事業の一環として 9 月 23 日、24 日の 2 日間にわたり実施されました。

1 日目は 19 時から富山県立立山カルデラ砂防博物館研究員の福井幸太郎さんを講師に迎えて、鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓（氷河）学術調査団員は語る「秘境カクネ里とは」と題して記念講演がありました。氷河の存在条件として、厚さ 30m 以上の氷体があることとその氷体が流動していることの確認が必要で、2015 年 9 月下旬から 10 月中旬の GPS を使った流動観測の結果から、カクネ里雪渓が氷河であることが確実になったということをうかがいました。

引き続き小遠見山エクスカーション（遠足という意味だそうです）のガイダンスがありました。リーダーの山岳総合センター今滝所長から配布資料の説明と、班ごとに分かれての参加者の確認と紹介があり、21 時 30 分過ぎに初日の予定を終了しました。

2 日目は白馬五竜スキー場のエスカルプラザ 2F に集合して、8 時 20 分から始まりの会があり、今滝リーダーから 8 人のスタッフ紹介、日程の説明がありました。A 班 9 名、B 班 9 名の点呼の後準備運動をして出発、テレキャビン、展望リフトと乗り継ぎ、降りたところから班ごとの行動となりました。

所々紅葉の始まった樹林帯を、話しながらでも息の切れない程度のペースで登りました。地蔵の頭までは日差しもあり周りの見晴らしも比較的良かったのですが、

見返り坂から先は霧で遠望も利かなくなり、途中一ノ背髪、二ノ背髪と 10 分の水飲み休憩をいれて、ほぼ予定通りの 11 時 20 分頃小遠見山山頂に到着して霧が上がるのを待ちながら早めの昼食となりました。

12 時 10 分頃カクネ里雪渓の下部がぼんやりと見えてきて、学術調査団に同行した山博スタッフの西田さんから下見の時に撮ったという写真と地形を照合しながらの説明を受けました。下山時刻を延長した甲斐があってか 12 時半ころ雲の切れ間からの日差しで雪渓末端に氷体らしきものが光っているのを確認することもできました。

12 時 45 分過ぎに下山開始、途中リフトには乗らずに、高山植物園を造った坪井さんの案内で遊歩道を下って 3 時過ぎにテレキャビンアルプス平駅到着、終わりの会で全員無事帰還を確認して解散となりました。

（担当役員　中畑清貴）

【共催事業　担当役員報告】

木崎湖　冬のバードウォッチング

《期　日》　11 月 19 日（日）　午前 9 時 30 分～正午
《場　所》　木崎湖
《講　師》　腰原正己さん　鳥羽悦男さん
《参加者》　11 名

11 月 19 日（日）、木崎湖畔で冬のバードウォッチングが行われた。木崎湖での野鳥の観察会は 5 年ぶりだが、以前は 12 月に行われていたものが 1 ヶ月ほど早められた。ところが 12 月並の冷え込み寒波の襲来で、小雪の舞う観察会となった。もっとも、当初心配されたほどの悪天候ではなかったが。今年は、春の小鳥の会が雨のためフィールド観察が中止となっていたため、幸いであった。

参加者は**名。小学校低学年から十分な大人まで、参加人数は多くはなかったものの、年齢構成に幅があり、家族そろって楽しめる企画であったと思われる。

観察に先立ち、鳥羽館長より木崎湖の観察環境の良さが紹介された。

ご指導は腰原正己先生と鳥羽悦男先生。観察を始めるにあたって、腰原先生からはカラスの生活様式について説明があり、双眼鏡を使って自分で捕らえて見る楽しみを勧められた。鳥羽先生からは鳥の生活する環境を併せて体験するようご指導があった。

ホオジロガモ　オス

観測は定例のルートでゆーぷる木崎湖を出発して東側の湖岸遊歩道を稲尾沢まで歩いた。いつも湖南で迎えてくれるのはオオバン。カモの類ではない。黒っぽい羽に鼻筋の白い線が目立つ。ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、カルガモなどおなじみの鳥たちを観察。フィールドスコープで見たり各自双眼鏡で追跡したりする。

今回の特筆はホオジロガモ。下見でも確認できていたが、当日は2羽が私たちの近くまで飛びまわってくれた。

今回の出現鳥は26種。まとめにあたって講師からは環境の変化などもあって鳥の分布に変化が見られることなどをうかがった。鳥インフルエンザも、養鶏という人為的な環境を経ていることもお話いただいた。今年も見られたカワウは木崎湖の観察では2007年から出現しており、各地で生息域を拡大している。

参加者が定員に満たなかったのは、やはり寒い時期のためだろうか。春の探鳥会と違って水鳥の観察はじっくり観察できる良さがある。野山の鳥も種類は少ないが、声だけでなく姿も良く見える。バードウィークでもなく、インフルエンザ騒ぎもあって盛り上がりには欠けるかもしれないが、冬鳥も知ることができこの時期ならではの良さのある観察会である。

（担当役員　丸山卓哉）

烏帽子の会

活動報告　大　林　山　（9月例会）

《月日》9月16日（土）　《天気》曇り（台風18号接近中）　《参加者》11名

《コース状況：その他周辺情報》

当初予定の「伊那権現山」は、台風と秋雨前線の影響で朝から雨となり、急遽、雨を避けられそうな筑北の「大林山」に変更した。集合場所での変更通知だったので、留守家族の方には、ご心配をおかけすることになったことを反省。

7年前に登行しており、一応のコースの記憶はあったけれど、一部道幅が狭くなった部分や崩落気味の所もあり、歩行注意の場所が数カ所あった。　仙波美代子

《感想》

『急きょ大林山へ』

9月16日朝、前夜までの予報通り、南信はもう雨との情報。「初めての山行の担当なのに中止かぁ。」と思いながら市役所へ。

少し待つと向こうからＳさんが「大林山に行くよ―。」と大きな声とともに登場。早起きして、予定だった伊那の権現山に替わる北信の山を探してくれたとのこと。短時間に過去の山行記録を見ながら、帰りの入浴場所まで決めたＳさんのアナログデータベース（？）にあらためて感動しました。

午後まで降らないでほしいと願いながら出発。でも、行き先のことで話が持ちきりになり、ついつい、市役所集合予定のもう一人、Ｏさんがまだなのに気づかず、予定時間より早く出てしまったのです。幸い早めに気づき、一本木神社で合流できました。Ｏさんごめんなさい！

松川で集合の皆さんと合流しても、一路筑北村の登山口へ。車の中で賑やかにおしゃべりしすぎて、青木村に出て戻るというハプニングもありましたが、8時過ぎには坂上トンネル入り口の登山口に到着。8時35分、11人で元気にスタートしました。

初めは、狭い樹林の中の藪こぎ？でしたが、ツリフネソウや水引草などに癒されながら進むと、その

後結構急な登りが一時間ほど続きました。曇りなので、汗をかくこともなく快適でした。稜線の鞍部らしい窪地「ぽんぽんの平」にでました。右は「八頭山」、左は「大林山」の表示。「八頭山」へは、10 分ぐらいで行けるとＳさんから話がありましたが、一同「雨が来ないうちに大林山に行こう！」との意見で一致、尾根づたいに緩やかに登りました。稜線に出たせいか、右の斜面から冷たい風が吹きあがってきました。いよいよ秋山のシーズンだなあと実感。なかなか休憩できる場所がなく、次の「岩井堂分岐」を過ぎた小高い尾根で休憩。ここは風が強くて本当に寒かった！皆さん防寒の対策、昼食は下ってから「ポンポンの平」までお預けかなと心配になってきました。休憩後、さあ早く頂上に行って来ようと覚悟しながら、続く緩やかな道、そして山頂直前の急なところを過ぎ、10 時 50 分頂上に到着しました。

そこは背の高い樹木や草むらに囲まれた、小さな広場になっていました。展望は全くないけど、途中心配した風や寒さから守られ、楽しくゆっくり昼食休憩となりました。マツムシソウがひっそりと 3・4 輪咲いていたのも嬉しかったです。

山頂の表示は、山名が大林山より大きく氷澤山、所在地は東筑摩郡・埴科郡・上田市の 3 つが書いてありました。地元では、ひざわやま・だいりんざんとも呼んでいるとのこと(後日見た本に書いてありました)。私は長野県人になってまだ日が浅いせいか「埴科」が読めなくて、生粋の長野県人Ｏさんに「はにしな」としっかり教わりました。

11 時 35 分、下山スタート。下りは登った時より険しく感じながら、12 時 50 分には、登山口に戻りました。途中、ぽんぽんの平までに、2 人がうっかり滑ってしりもち？「後半気を付けよう」とみんなで気を付けていたのに、右下がりの細い道で足を滑らせ 3 人目が、今度は左に切れている坂道で 4 人目が転倒…。くわばら、くわばら。でも、4 人ともなんともなく、一同無事下山できてホントによかったです。

そして鳥居の奥にある「みたらしの湯」（麻績福祉センター）で疲れをとり、3 時 25 分松川道の駅、3 時 45 分大町市役所に到着しました。運転のＫさん・Ｗさん、そして初の山行担当の私をリードしてくれたＳさん・Ｗさんありがとうございました。

天候に合わせての急なコースの変更もスムーズ、それにみんなが協力して楽しむ。烏帽子の会はすてきだなあと思いました。

補足１　下見で行った伊那の権現山もいい山ですよ！皆さん今度行きましょう。

補足２　展望がない割には立派な山の案内盤があり不思議に思ったのですが、後日見た案内書には「北アルプスの展望が素晴らしい」と書いてありました。以前は木があんなに繁茂していなかった、もしくは冬に行ったら展望がいいのかもしれません。

川合由岐子

《コースタイム》（八頭尾根コース）

松川道の駅 7：00→（道間違い）→8：15 坂上トンネル駐車場 8：35→9：35 ぽんぽんの平 9：40→10：50 大林山頂上・昼食 11：35→12：50 下山 13：05→13：20 入浴（麻績村福祉センター）14：20→15：25 松川道の駅→15：45 大町市役所

活動報告　飯　盛　山　(11 月例会)

《月日》11 月 12 日（日）　《天気》晴れ　《参加者》8 名

《コース状況：その他周辺情報》

11 月 11 日（土）の予定であったが、天候不順で 12 日（日）に延期した事が正解で、真っ青な青空の下登山できた。天気は良かったが登り始め１時間弱は樹林帯の中歩きで、景色も拝めず寒さが厳しかった。平沢山と飯盛山の分岐点に到着すると突然視界が開け、富士山を囲んで南アルプスが広がっている姿を眺めながら、お日様の暖かさを頂きながらの快適な登りとなった。飯盛山頂上への道は階段状に良く整備された道で大変登りやすかった。頂上も眺望が良いが、狭く風が強いので少し下り見晴らし台にて昼食を取ったが、そこからの眺望は素晴らしく、山に詳しい人に出会い、そこから見える山の名前を教えていただいた。富士山を皮切りに左

回りに金峰山、瑞牆山、五丈岩、小川山、天狗山、小倉山、男山、浅間山、八ヶ岳連峰、茅ヶ岳等々、右回りには甲斐駒ヶ岳、北岳等南アルプスが見え 360 度の眺望が楽しめた。八ヶ岳連峰は日頃我々が目にする方向とは逆側からの展望ですぐ目の前にそびえていて大迫力でもあった。また登山口出発地点・平沢峠は、ナウマン象で有名なナウマン博士がここから見て、大きな溝状の地質構造を発見し、それをフォッサマグナと名付けた命名発祥の地であり、偶然にも本日 11 月 12 日が名づけの誕生日であると言う記念すべき地・日に巡り合えた。

《感想》

飯盛山はその名の通り、茶碗にご飯を盛った形の優雅な姿で優しく迎えてくれた。また見晴台からの富士山を筆頭とした 360 度の眺望の素晴らしさ、目の前で逆側からみる八ヶ岳のど迫力に感動した。歩き時間が少なくやや物足りなさがあったが、見晴台から見える全部の山の名前を教えてくれる人に出会い、またフォッサマグナの名づけ親とも縁があった地・日で、思い出に残る印象深い登山となった。

「飯盛山　その名の通りの　優雅さで　眺望開いて　我ら迎えし」

《コースタイム》（八頭尾根コース）

松川道の駅(6:30) 1 台の車で出発 → 八ヶ岳高原大橋(7:50) → 平沢峠駐車場到着(8:10)　登山開始(8:15) → 平沢山・飯盛山分岐点(9:00) → 飯盛山頂上到着(9:35) → 見晴台到着(9:50) → 昼食(9:50～10:30) → 下山出発(10:30) → 平沢峠駐車場到着 (11:20) → 信州道の駅蔦木宿にて入浴 (11:50～12:15) → 松川道の駅到着 (14:30)

平成 29 年度山行予定（参加にはサークル加入が必要です）

1 月・・安曇野国定公園スノーシュー　担当：越山・吉田

１月はあづみのアルプス公園での、森遊びと、おやき作りを計画しました。スノー･シューで、散策した後は、手作りの灰焼きおやきを昼食にする予定です.

尚、当日は、公園のガイドさんに案内していただきます。

日　時　平成 30 年 1 月 21 日（日）
集合場所　国営アルプスあづみの公園
集合時間　AM 9:30
費　　用　1、200 円（入園料、お風呂、おやき代含む）
申込期限　平成 30 年 1 月 16 日（火）

3 月・・黒斑山スノーシュー　　担当：宮澤夫妻・塩瀬

5 月・・−未定−

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで。

ボランティアサークル

9 月で屋外での除草作業は終了しました。10 月から 3 月までは「山と博物館」などの封入作業中心に行っています。11 月は封入作業後に大型標本庫 2 個を 1 階倉庫から２階資料室に移動する作業を行いました。１月から 3 月までは 40 周年事業、総会準備があり、運営部会開催日と合せてボランテァの封入作業となりそうです。来春、4 月頃からはサクラソウの世話、博物館周辺の環境整備、館内案内・解説などの活動が再開します。ご協力下さい。

ボランティアサークルとして発足して７年が経過します。来年度、友の会 40 周年を迎えますが、博物館友の会ボランティアサークルにも意見、提案などお寄せ下さい。また、新しくサークルに入って下さる方大歓迎です。博物館までご連絡下さい。（ボランテァ保険の加入手続きをさせて頂きます）

事務局　有川美保子

富山市科学博物館友の会との交流（博物館準備班から感想）

昨年度から富山科学博物館友の会の方々との交流の件について伺っていました。友の会同士の交流は初めての経験のこと、心待ちにしていました。10 月 1 日の交流会打合せのために、７月に富山科学博物館副館長はじめ友の会担当職員の方３名で山岳博物館及び中山高原・火山灰層の自然観察会場に雨の中お見えになりました。その後、運営部会中心に準備を進めてきました。

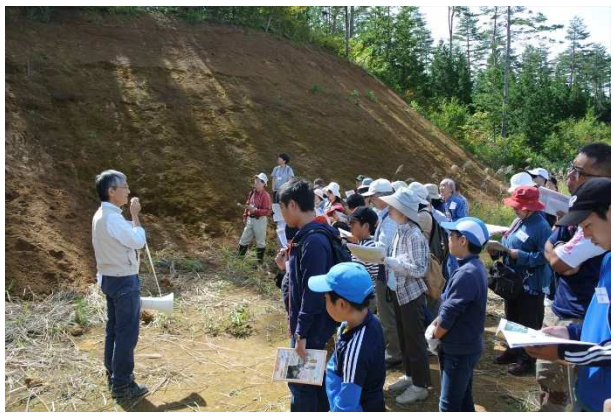
昼食のお弁当は、市内の手作り弁当店に、お土産は、大町のリンゴ農家に食べ頃になるシナノスイートをそれぞれ注文しました。当日、博物館交流会場の準備は、運営部・ボランティアサークルの会員が行いました。Mさんからの差し入れのブドウ、リンゴ等をテーブルに並べ、お土産のリンゴを個包装する等して、自然観察を終えて来館される皆さんを待ちました。おおまぴょんも正面玄関でお出迎えしました。子どもさんも大人の方々も大喜び、おおまぴょんと一緒に写真に納まっていました。

昼食会場ではそれぞれの会長から挨拶を頂き、富山科学博物館友の会、山博友の会の方々が一緒のテーブルに着き、お互いの友の会活動等を情報交換する等、和やかに歓談する中、プロジェクターでお互いの活動紹介がありました。メモをとる方、質問される方が多く熱心な会員の皆さんに感心しました。”見習わなくては！”富山名物かまぼこのお土産を美味しく頂くなど有意義な交流会となりました。その後、館内、附属園の見学をして頂きました。３階からの眺望は富山市の裏側とあり関心が高かったようです。今回参加された会員の方々は、親子連れから年配の方まで年齢層の厚いことに驚き、羨ましく思いました。来年 10 月に富山で交流会が予定されていますが、この交流を通して富山科学博物館友の会に学び、会員の若返利を図るためのヒントが得られないかと密やかに思っているところです。今後も友の会同士の交流事業が継続出来るよう願っています。

遠路、富山からお越し頂いた富山科学博物館友の会の皆さま、交流事業に協力下さった大町山岳博物館職員・友の会の皆さまお疲れ様でした。

（有川美保子）

富山市科学博物館友の会との交流（フィールド編）



大町山岳博物館友の会も各地の博物館を訪ね歩くが、各館で友の会の会員の方の同伴を受けたり解説をいただくことがあっても、訪問館の友の会との交流を目的としたものはなかったように思う。

今回、10 月 1 日、富山市科学博物館友の会（以下　科博友の会）からご提案があり、山博を訪問いただき、友の会同士の交流が行われた。昨年秋、科博友の会が 10 周年を迎えるにあたって、他の友の会との交流を行いたいとのことから先輩友の会（！）として山博友の会に白羽の矢が立ったようである。いろいろ調べてみると、科博友の会は博物館の主導で設立されており、子どもも若い人も多いらしい。先輩過ぎる山博友の会は、どのようにおもてなしをすればよいか、うろたえてしまった。

先方からの希望に「中山高原」が入っていた。引率の増渕先生が火山の先生だったので、「中山高原」で結びついたのが、富山から飛んできた火山灰『大町テフラ』をいっしょに観察すれば、博物館らしい内容で良いのではと企画を進めた。一面の白い蕎麦の花を見たかったという先方の意向は無視してしまった（花はすっかり終わっている）。

11 時、行事の重なりで多少子どもの数は減ったものの、子ども 7 人、大人 26 人、バス運転手含めて総勢 33 名が到着した。

こちらは地質の矢野先生にお願いして、露頭の清掃や観察の準備をしておいた。火山灰（大町テフラ）は今から数万年から数十万年前に堆積したもので、特に上位のものは今の地形と平行に堆積している。堆積してから浸食されたり地形に変化がなかったことを意味する。高さ 5mの露頭でも、地形の低いところへたどっていけば子どもでも上位層に手が届く。

今回は大町テフラ上部層の最下位

のD層という立山起源と見られる層を採取して観察した。どのくらいの時間がかかったのかは分からないが、本層だけでも数10cmの厚さで堆積している。今の時代にもし立山に大きな火山活動があったなら、大町付近は生活に適さない場所となってしまったであろうなど、矢野先生より当時の火山活動や氷河期の環境なども含めてお話いただいた。

火山灰の観察は器を用いた水洗いで鉱物を取り出していく（わんがけ法）。最初は茶色い泥水だったのが次第に澄んで粒つぶが残っていく。これを乾かして粘着板にくっつければフィールドプレパラートの出来上がり。ルーペで観察したり実体顕微鏡で観察したりした。磁石にくっつく磁鉄鉱の他、透明な石英、白い長石、あめ色のような輝石などが観察できた（十分な説明はできなかったけれど）。

フィールドのあとは山博に入ってお弁当を食べて各友の会の活動報告や館内見学を行った。来年は富山を訪れよう。

（山博関係18名参加）

（編集部）

ゆきつばき通信編集室より

山博友の会（新生）も40年となります。会長の文章のように、皆さんのご意見によって記念となる年にしたいと思います。まだお手元にアンケートはがきのある方、無駄にせずぜひご意見など書いて投函ください。それも40周年に参加することになます。

今号は、秋の事業の報告が中心になりました。富山との交流会も、博物館の協力もたくさんいただいて、充実したものになりました。引き続き、皆さんの投稿をお待ちします。

〔投稿先〕

編集部丸山アドレス　takuya-m@juno.ocn.ne.jp　（件名に「ゆきつばき通信」を付けてください）　もしくは、山岳博物館の事務局にお送りください。

（丸山卓哉）

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内

会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信　第173号

発行／大町山岳博物館友の会　　平成29年12月24日

〒398-0002　長野県大町市大町8056-1

大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334